

宮城留理子のように流暢ではないことに、【自分自身】、いらだちを感じていた。 UY3_1945

【自分自身】、なぜ金花糖にこだわるのか、よ NZ1_1093

【自分自身】、噛みしめるような口調で呟いた NS1_3960

と同時に二人を相手に話すことによって、【自分自身】、考えを整理する意味もあった UY2_3840

は奥平の両親をなじる気持ちで呟いたが、【自分自身】、祥子の家出に気づいたのがつい NS2_3640

野が美那子をマンションに保護し、次には【自分自身】、同じ部屋に身を潜めた機会を利 NS1_3543

した表情で公開捜査を願い出、二十日には【自分自身】テレビに出て丹野の失踪を全国に NS1_3275

的な目で対象を検べた結果にすぎないと、【自分自身】噛みしめるように答えた。 NS3_4117

それによって【自分自身】完全なアリバイを得ると同時に、 NS1_4939

【自分自身】警察の配備を逃れるためにも、ジ NS3_5100

あたしは【自分自身】雇われの身よ、そんなことできる Sbo_816

露口が、【自分自身】考えこむように、横尾に尋ねた。 NS4_1082

その場合にも、【自分自身】がこんな泥沼に立っていたのでは NS3_5018

しかし【自分自身】がまず疑われるのではないかと思 NS1_4894

て、紹介されるような人間でないことは、【自分自身】がよく知っている。 Ter_5330

彼は、【自分自身】がわからなくなってきた。 WS3_2845

彼は、【自分自身】が開発研究に当たるよりも、芦田 NS6_1052

【自分自身】が危険を冒して、女たちを吊橋か NS2_347

芦田さんよりいくつか上だったから、もう【自分自身】が研究するより、システム・アナ NS6_1213

いう自信が、どんと根をおろしてしまい、【自分自身】が自分に対して作り上げていたひ NZ1_682

彼は【自分自身】が蒸発する約半月前の六月二十五 NS1_4853

の考え方からすれば、結婚を望む女性は、【自分自身】が男性社会から解放されていない WS3_82

いも、いっさいが疑いのまま闇に埋もれ、【自分自身】が致命傷を受けるには至らないか NS3_5104

いや、現在の彼なら、どんな話題でも、【自分自身】が直面している問題に結びつけて NS3_338

ンバーや人相を通報されれば、その時から【自分自身】が追われる立場になる。 NS3_5085

りか、その父親を殺したのは、ほかならぬ【自分自身】だったのだという悔悟の念が、彼 WS3_4599

言うべきは【自分自身】である。 Gar_1460

【自分自身】では実感が無いものの、想像でき NS7_1561

、そこまで穿った見方はしないだろうと、【自分自身】でも認めざるを得なかった。 WS6_3470

かの性に押し込めなければならないのか、【自分自身】で決めつけてしまいたいのか、そ NZ1_1690

確かに、【自分自身】で賢いとは思っていないから、そ Ter_4764

り昨夜、なにかのポイントを探るために、【自分自身】で後樂園球場に姿を現わしたのだ KK2_1483

どうしてこんなにお金がないのだろうと、【自分自身】で不思議に思うこともあって、よ NZ1_557

に混じり笑い喋り動き回ると、どちらも【自分自身】という確固とした感触が薄らぎや NZ2_112

面にも、草のそよぎにも、何者かがいて、【自分自身】と親しくしてくれるような空想と NZ2_925

桃子は、【自分自身】と通用門をかわるがわる眺めた。 Him_3581

ぬ劣等感を他人にかくすために、あるいは【自分自身】にさえ覆いかくすために、わざと OK1_1918

滝川は、国松をなぐさめるといふより、【自分自身】にたいする励ましの響きで言った SI1_5240

はといえば……人間の内部には、日ごろは【自分自身】にもわからない、火のような、あ NS7_2262

この連続殺人が霜村の復讐であることを、【自分自身】にもアピールしようとするシンボ UY5_5346

、それを弾みとして、先端へにじり寄り、【自分自身】に決断を与えるかのように、 CS6_32

土橋はそう言うと、まるで【自分自身】に嫌悪を感じてもしたような不快 UY3_2077

と、彼女は、そこで、【自分自身】に言い聞かせるような強い調子で SS1_1469

谷田の一言一言には、【自分自身】に言い聞かせるような響きがあっ CS1_1382

玲子に、というよりも、【自分自身】に言い聞かせるようなつぶやきだ CS4_2927

これまた、【自分自身】に言い聞かせるようにつぶやき、 CS5_2500

浦上ははっきりした口調で、【自分自身】に言い聞かせる。 CS6_3380

これはもう移動するしかないのだと、【自分自身】に言い聞かせるのだ。 NZ1_2454

珠子は、【自分自身】に言い聞かせるため、そうつけ加 TK1_1421

、厳しく戒めなければならぬと、茨木は【自分自身】に言い聞かせていた。 WS6_3037
 浦上は【自分自身】に向かって、話しかけていた。 CS2_3927
 浦上は、【自分自身】に向けての、つぶやくような口調 CS1_1037
 なかばは【自分自身】に向けて、開き直るようにいった NS6_4542
 外に置かなければいけない、という警告を【自分自身】に向けて発していた。 UY3_4099
 ぶやきは、横に立つ谷田、というよりも、【自分自身】に向けられたものだった。 CS1_4122
 浦上のつぶやきは、【自分自身】に向けられたもののようでもあつ CS2_4131
 浦上は思わず箸を休め、【自分自身】に向けるようなつぶやきを漏らし CS1_843
 だって、【自分自身】に照らして考えてみたって、常に NS5_1188
 で、美那子は私や勉に対して、というより【自分自身】に対して、一種の免罪符が得たか NS1_6228
 同じように恋愛論の類もまた【自分自身】に対して読むことを禁じていたも NZ1_1541
 「……【自分自身】に対して」と続けるつもりだった UY5_4214
 ら手にかけた千秋さんと和彦さん、そして【自分自身】に対する誇示だったのではないか CS4_3984
 、浦上なりの仮説の整理、というよりも、【自分自身】に対するもう一つの決断となった CS5_1773
 部下や、【自分自身】に対する厳しさで知られる和田氏 NK7_5316
 犯人は【自分自身】に二億円の保険をかけ、伊東を受 Oku_5596
 今はいっそ、【自分自身】に腹がたつ。 NS5_2452
 つ若いと思ひ、まるで無意味な比較をした【自分自身】に腹を立てるように、すぐさまそ NS6_1461
 亀井は、森下にとり、【自分自身】に腹を立てたような気持ちになつ NK3_2800
 江島は、三浦を叱るとり、【自分自身】に腹を立てているという様子で、 NK3_4441
 【自分自身】に無理矢理に息をつかせるように NZ2_107
 かではないのに、親の方はひとりひとりが【自分自身】のことだと思い込んでしまうかも NZ1_1299
 それより【自分自身】のことだ。 Sbo_842
 ると、あれほど能弁なのに、現在のことや【自分自身】のこととなると、どうしてそんな UY1_4509
 、絶対誰にも見られてはならない、純粋に【自分自身】のためだけにあるからだ。 NS5_2280
 だが、真淵が〈純粋に【自分自身】のためだけに〉書き始めた新しい NS5_3676
 彼らに信じさせるためには、私が〈純粋に【自分自身】のためだけに書いている日記〉を NS5_6096
 それこそは、〈純粋に【自分自身】のためだけ〉と断わりながら、実 NS5_6104
 浩二には、絵里香が【自分自身】のために会社を辞めて、仕事を続 Des_3665
 【自分自身】のためにだけ用意されている夏で NZ1_1728
 人間はいつも、【自分自身】のために苦勞をし、努力をし、そ SS1_3268
 の背負っていく負担の重さが、知らぬまに【自分自身】のもののように心にのしかかって NS2_1692
 【自分自身】のコンピュータの才能を、といっ NS6_2978
 そうすることで、彼は無意識に、【自分自身】の何かにも目をつぶろうとしてい NS3_4834
 手配中の凶悪犯に似た男は、まぎれもなく【自分自身】の顔だ。 KK1_4138
 滝川は、【自分自身】の気持ちを鎮めるように、新しい SI1_6407
 彼をハッとさせたのは、【自分自身】の行動の類似性ではなく、彼に同 Cyo_1583
 ひとまずの危険を遠ざけ、【自分自身】の行動をも選びとるための、猶予 NS5_6090
 生前の一ノ瀬勝行は、【自分自身】の才覚で裏金を作っておったとい WS4_2568
 彼も【自分自身】の作品の仕上がりを見たいだろう NS5_2790
 【自分自身】の子供が生まれたり、小さいと NZ1_1318
 注意からなしたこととはいえ、この始末は【自分自身】の手でつけたいとおもいます。 Cyo_4109
 を、どんなふうを受け止めればいいのか、【自分自身】の心が整理できなかつたともいえ NS5_6407
 いや、榎本の言葉によって萎えかけた【自分自身】の正義心への叱咤かもしれない。 UY5_4672
 【自分自身】の怒りを確認するために語る。 Him_4043
 留理子は一息ついて、【自分自身】の頭が冷静になるのを待ってから UY3_1793
 れをつきとめる手段ありません——ただ【自分自身】の判断が残されているだけです。 NS4_3616
 は、誰かをかばってその罪を着るために、【自分自身】の犯罪を最後まで隠し通さねばな TK1_4199
 末永喜造にしてみれば、このさい、【自分自身】の微妙な立場を考えれば、極力、 WS7_3374

で日曜日に休めるようになった芳江だが、【自分自身】の勉強のために、休日も情報収集 Des_3902
 君の優しさも、忍耐強さも、すべて、【自分自身】の保身のためではないのかとね NK5_5359
 奪ったあとでは、彼女を一人残し、まるで【自分自身】の奔流から逃れるように、また工 NS5_1307
 校長はこのとき、【自分自身】の目で、事件現場をよく見定めて SS1_732
 いま、【自分自身】の問題で苦しんでいる真之に本当 TK1_3669
 だが——今の麻子は、【自分自身】の問題に意識を占められている。 NS3_1908
 以上、私に何をしろっていうの？——と、【自分自身】の良心に対して、多少、開き直り UY2_1236
 したが……それに兄は男ですし、その上、【自分自身】はあ子供のつくれない身体でした NS1_3987
 カソの名画をえらそうに批評していたが、【自分自身】は一枚の絵をかく才能もなかった Tik_1145
 社を辞めて、大変だった一年を乗り越えた【自分自身】へのプレゼントだった。 Des_3997
 は何度となく思い返し、作り直し、時には【自分自身】までも登場人物に加えて楽しんだ NZ1_1257
 と密かに告げ、【自分自身】も、静かに静かに前進した。 SS1_5775
 【自分自身】もショックを受けていたが、陽子 Des_992
 ては、管轄の警察署に捜査を依頼したり、【自分自身】も甲府市へ出向いて、真相の究明 WS4_516
 絵里香は、【自分自身】も動揺していたが、陽子のことが Des_1003
 シスタントに聞かれてはじめて、絵里香は【自分自身】も木崎がはさみを何に使うのかよ Des_881
 を書く時、人は一寸背筋をのばして、当の【自分自身】より一つ二つ姉さんになった気分 NZ1_2512
 濡れて歩き、ようやく【自分自身】らしい心地になった。 NZ2_117
 そんなふうと思うのは【自分自身】をおとしめることにほかならない UY3_4809
 に仕立てたくて、周囲の人だけじゃなく、【自分自身】をもだますお芝居をしていたみた Oku_4033
 美保はそう慰め、【自分自身】をも納得させてきたが、不満と、 CS5_1741
 たい気持ちを抱え込んでいて、相手の方が【自分自身】をよく知っていたのかと考えると NZ1_679
 彼女は、【自分自身】を戒めた。 WS3_1043
 赤かぶ検事は、襟をただす思いで、【自分自身】を戒める。 WS7_17
 再度、【自分自身】を決断させる語調になっている。 CS5_3522
 とは、がむしゃらに動き廻っている中で、【自分自身】を見つめ直すことである。 SI2_3166
 留理子は慌てて【自分自身】を叱りつけ、いま湧いた疑問をう UY3_4693
 ハッとして【自分自身】を取り戻し、そこまでの相手に気 SI3_2998
 支払った代償は大きい、お陰で、彼女は【自分自身】を取り戻すことができたのだった WS6_5009
 浦上の低いつぶやきは、【自分自身】を納得させるためのもののように CS4_3579
 谷田は、【自分自身】を納得させるようなつぶやきにな CS4_4302
 日をすごすためだったのだろうと、彼女は【自分自身】を納得させた。 WS3_2921
 の話の聞き手を見つけ出せなかった私は、【自分自身】を聞き手に仕立てる以外になかっ NZ1_1368
 にもかかわらず、【自分自身】を聞き手としても、自分の考えて NZ1_1383
 【自分自身】を話し手として、同じ自分を聞き NZ1_1379